

第48回 鳥取市文化賞受賞者

ながみ のぶひさ
永見 信久〔音楽〕

【受賞理由】

愛知県立芸術大学大学院を卒業後、鳥取大学教育学部、島根大学教育学部教授を歴任し、多くの学生に対し、ヴァイオリン奏法や合奏などを指導してきた。

大学で教鞭を執る傍ら、長年にわたり鳥取ジュニアオーケストラの指導に当たっており、毎年定期演奏会を開いてきた。ジュニアオーケストラではこれまでに弦楽器奏者（ヴァイオリン、ビオラ）を多く輩出しており、鳥取市の若手奏者の育成や、音楽文化の向上に貢献している。

鳥取県のヴァイオリン演奏、弦楽アンサンブル指導の第1人者であり、本人の活動、活躍もさることながら、長年にわたって青少年の育成に貢献され、実際に多くの弦楽器奏者を鳥取の地から輩出していることから、鳥取市における音楽分野での功績は大きい。

【経歴】

| | |
|---------|---|
| 昭和49年3月 | 愛知県立芸術大学 大学院卒 |
| 昭和50年4月 | 鳥取大学教育学部赴任 |
| 昭和51年 | 教鞭をとるかたわら、リサイタル、室内楽の演奏活動に入る 鳥取市交響楽団の発足に携わる |
| 平成7年 | 鳥取ジュニアオーケストラの結成に携わり、後進の指導にあたる |
| 平成16年 | 島根大学教育学部赴任 |
| 平成27年 | 島根大学退官 |
| 現在 | 島根大学名誉教授 鳥取県オーケストラ連盟会長 鳥取県文化団体連合会理事 |

【主な活動】

| | |
|----------------|---|
| 昭和47年 | 大学の同窓生と弦楽四重奏を結成 |
| 昭和59年～ 平成3年 | ピアニスト村上弦一郎氏（元桐朋学園大学学長）と共にリサイタルを開く |
| 平成7年～ 平成21年 | 鳥取市交響楽団と共にベートーヴェン、メンデルスゾーン、 シベリウスの協奏曲を演奏 |
| 平成13年～ | 河田雅子氏と共にコンサートを開催 現在に至る グリーク「ソナタ」、ベートーヴェン「クロイツェル」等々 |
| 平成27年3月 | 退官記念演奏 プロコフィエフ協奏曲第1番 |

【作品に対する思い】

芸術作品の多くは、鑑賞者が作品を直接鑑賞することが可能であるが、音楽作品の場合は大多数の人は作品を直接鑑賞することができません。つまり、大抵の場合、演奏者を通して鑑賞することになります。

したがって、演奏者はその代弁者として作曲家の意図を汲み取ることが求められます。

つまり、演奏するときには、作曲者が生きた時代と共に、作曲者の特質が現れている意図を読み解き、どのように演奏するのかを考えています。

【活動に対する思い】

鳥取大学赴任時には、鳥取県、鳥取市にオーケストラが無い状態であり、故榊兵治名誉教授らと共にオーケストラを立ち上げ、続いて演奏されることが無かった「県民による第九」を合唱団の人たちと結成しました。

また、国民文化祭とっとり2002に向けて、鳥取ジュニアオーケストラを立ち上げ、育成に努めてきました

鳥取県の音楽レベルを上げたいという思いから、音楽的そして魅力的な音を生み出すことに力を入れてきました。

そのため、心を込めた演奏に求められる基本的な要素である音程、音色、楽曲のリズム等の必要性を問いながら活動を続けています。

また、聴き慣れた曲、演奏されている機会が少ない曲等を取り上げ、ヴァイオリンの曲をより多くの人々に耳にしていだけるよう努めています。

【写真】



島根大学管弦楽団で指揮を務める（松江市プラバホール）